

- P.① 2010 年度入学式式辞
P.② 2009 年度進路状況報告／
就職支援推進プログラムについて
P.③ 創立 110 周年記念事業ニュース
P.④ 2010 (平成 22) 年度事業計画

- P.⑥ BILLBOARD 同窓会賞／留学生紹介／
寄付者ご芳名等
P.⑦ 新任専任教員紹介／卒業礼拝 等
P.⑧ 公開講座等のお知らせ

発行日 2010年5月31日
発行 津田塾大学
編集 企画広報課
〒187-8577
東京都小平市津田町2-1-1
Tel.042-342-5113
Fax.042-342-5121
<http://www.tsuda.ac.jp>

2010 年度入学式式辞【要旨】

津田塾大学学長 飯野 正子

「未来を拓くために — 失敗を恐れない力を」

ご入学おめでとうございます。本日、桜の花の咲き誇るこのキャンパスに、津田塾大学の歴史に新しいページを加える「仲間」として学部生 672 人(編入学生 9 人を含む)、大学院生 37 人の皆さんをお迎えし、教職員一同、大変うれしく誇らしく思っております。

長い間の努力によって目標を達成された皆さんですが、今はここで始まる大学生活への大きな期待と同時に、緊張や不安を感じておられるのではないのでしょうか。でも、心配なさらないように。在学生や卒業生が言うように、津田塾大学には「魔法のような力」があって、皆さんはきっとこの大学を好きになってくださると信じております。この「魔法のような力」の一つは、教職員と学生との距離の近さ。熱心な教職員はいつでも親身になって皆さんの相談に乗る姿勢と、真摯に学生を育てようという気概をもってサポートしております。二つ目は、皆で切磋琢磨しつつお互いを高めあっているという雰囲気。その中で生涯の友に出会うことができるでしょう。三つ目は、卒業生との交わり。多様な分野で活躍する卒業生は、貴重なロールモデルとして皆さんの将来へのインスピレーションになるはずです。また、このキャンパスの四季折々の美しさも、皆さんの毎日に彩りを添えてくれます。

このように、魔法のようでありながらも、確かな力に支えられて始まる皆さんの新たな歩みを、大学としてどう支えて差し上げられるのか、お話ししたいと思います。大学の教育とは、具体的には大学の理念、教育組織、そして個々の授業から成り立っています。本学の教育理念をスローガン風に申しますと、「21 世紀の複雑で多様なニーズに対応すべく、グローバルに、そしてローカルに、勇氣、情熱、志をもって世界を拓き、社会に貢献する女性の育成」です。その教育の柱は次の 4 点を育むことにあります。(1) リベラルアーツに裏打ちされた、オールラウンドな人間力。(2) 世界に向けての知の発信力。(3) 国際的に活躍・行動するための英語力とコミュニケーション能力。(4) 生涯を通して学び続ける姿勢。本学の創立者津田梅子先生は、女性の自立には高等教育が必要だと考え、女性に「専門教育を与える最初の学校」として、本学の前身「女子英学塾」を 1900 年に創立されました。つまり、高度専門職業学(プロフェSSIONAL)の育成は、本学の建学の精神であり、大切な伝統なのです。

しかし、本学の目指すところは、そこにとどまりません。「女子英学塾」の開校式式辞で津田先生はこう述べておられます。「…専門分野で完全になることに努力する一方、all-round woman を作るのに必要な他のことがらをないがしろにしてはなりません。世間一般のことがらを知り、他の分野のことに接するよう、努めていただきたい。」この all-round woman という表現は、卒業生がよく使う「津田スピリット」と同様、本学の特色の根幹を示すものです。all-round woman になる力を培うためには、受け身の姿勢で勉強するのではなく、「自分で考える」「自分から進んでやってみる」「積極的に参加する」ことが重要です。

そこで私が強調したいのは、失敗を恐れないことです。新しいことを探検し、知らないことを経験するときには、当然、失敗もあるはずです。最近「居心地のよい範囲」(comfort zone) にとどまろうとする若者が増えているといわれています。しかし、失敗して恥をかいたり、uncomfortable になることを恐れては、進歩や達成はないのです。また、失敗する時間が惜しい、目標に向かって一直線に進まなければ、と考えている方もあるでしょうが、学びには回り道と思われることがあってよい、回り道は決して無駄ではなく、むしろ自分の基盤を作ることに役立つ、と私は信じております。成功には失敗や回り道も含まれるのだと知ることは、大学にいる間のみならず、将来に向けて必要な力、生きる

力になるはず。易しいから、あるいは結果が見えているからやってみるのではなく、難しいからやってみるといった気概を本学の学びの中で得てくださるよう、私も皆さんを支え、勇気づけてまいります。

先日、ハーバード大学初の女性総長であるファウスト博士が来日され、お話を伺う機会がありました。そこで彼女は、津田先生が学ばれ、今も本学と親交の深いプリンマー大学で学部教育を受けたことが、ご自身のその後のキャリアにとって重要であったと話されました。「小規模の女子大学だったので、のびのびと自分の可能性を試すことができた。失敗を恐れて萎縮することがなかったので幸運だった」と。本学においても、皆さんが同様の気持ちを抱いてくださることを期待しております。

失敗を恐れない力は、現在のように先が読めないといわれる時代に特に必要とされる、強靱な精神力、確かな判断力、しなやかな適応力、大胆に発想転換ができる力となります。これこそ、本学のめざすリベラルアーツ教育が育む all-round woman の力なのです。皆さんが、津田塾大学での学びの中で、本学のよさを十分に味わいつつ、そのような力を持つ人になってくださいますように。

津田塾大学での日々が、皆さんにとって確かな礎になり、生涯にわたってインパクトを与え続けるポジティブな経験となりますことを願って、ご入学をお祝いする挨拶といたします。



■ もうひとつの入学式

小平キャンパスで学部、大学院の入学式が行われた同日(4月5日)夜、千駄ヶ谷キャンパスでは大学院文学研究科 英文学専攻 英語教育研究コース修士課程の入学式が行われ、6 名の新入生を迎えました。現職英語教員を対象としたこのコースでは、全員が教育の現場で仕事をしながら、大学院で学ぶことになります。

新入生は、入学式で飯野正子学長から激励を受け、その後行なわれたオリエンテーションでは、担当教員らと共に、新しく用意された院生室や講師室などを見学しました。



■ 2010 年度 入学者数

学 部	1 年次	2 年次 (編入学)	3 年次 (編入学)
英文学科	259	—	6
国際関係学科	286	2	—
数学科	59	1	—
情報科学科	59	—	—
大学院	修士課程	博士課程	
文学研究科	*18	2	
理学研究科	6	2	
国際関係学研究科	5	4	

*内 6 名は英語教育研究コース (千駄ヶ谷キャンパス)

2009年度進路状況報告

2009年度卒業生618人の進路の内訳は、就職453人（全体の73.3%）、進学（国内外の大学院・大学進学者）57人（同9.2%）、その他108人（同17.5%）となっています。企業が厳選採用を行ったことから、学生にとって非常に厳しい状況となり、就職者数（教員・公務員を含む）の割合が前年度比8.5%減少しました。一方、「その他」の割合は、昨年の2倍近い数値となりました。

「その他」に含まれる学生は、就職先未定、専修学校、非常勤講師、教員採用試験準備、公務員試験準備などとなっています。今年度の「その他」の特徴は、公務員試験準備、常勤・非常勤講師をしながら教員採用試験の準備をする学生が大幅に増えていることです。また、就職未内定のまま卒業した学生が例年に比べて多かったことから、今年からの取組として就職活動支援のためのメーリングリストを作成しました。希望者には求人情報やその他就職に関する情報をメール配信し、卒業後も支援を続けることとなっています。

■就職

2009年度卒業生のうち、求職者に対する就職決定者の割合（内定率）は95.6%となっています。一昨年以来の経済状況の急変から、求人件数は前年度比27%減となり、学生にとって厳しい状況となりました。しかし、最後まで諦めずに就職活動が続けた結果として、高い内定率を維持したところに本学学生の力強さが現れています。

就職先としては、各企業ともに採用人数を抑制したこともあり、例年5人以上が就職する企業の数が大幅に減少しました。その反面、金融、インフラを中心に2～3人の学生が就職する企業が大幅に増えました。また、このような社会情勢から、教員、公務員決定者の人数が例年の2～3倍増となっていることが特徴です。

■教員

教員決定者は、公立教員が11人、私立教員が1人でした。公立教員

希望者には、教員採用1次試験の対策として教職教養の直前講座、2次試験対策として面接対策講座を行いました。

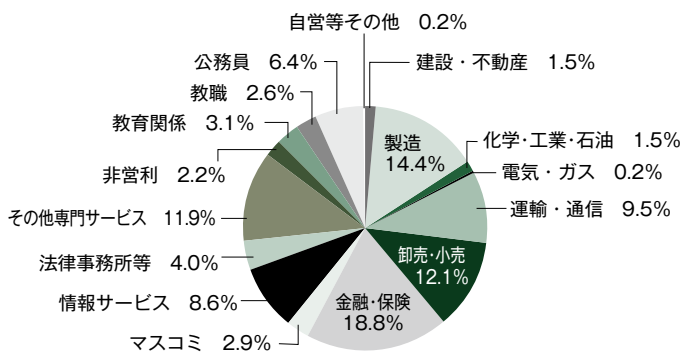
今年度は、非常勤講師を含めた教員の決定者は25人となり、教壇に立ちながら引き続き教職をめざす学生が昨年・一昨年の約3倍となっています。

■公務員

公務員決定者は、国家公務員2人（前年度2人）、地方公務員27人（前年度11人）となり、昨年の2.4倍と大幅な増加となりました。地方公務員決定者の中には、年度の後半になって採用が決定した学生も多く、粘り強く試験対策に取り組んだ結果と言えます。

■進学

進学者のうち、国内の大学進学者は5人、大学院進学者は46人（うち、本学大学院進学者は文学研究科8人、理学研究科5人、国際関係学研究科3人）、研究生等は6人でした。海外の大学・大学院への留学生は1人でした。



※端数四捨五入のため、合計等が一致しないことがあります。

在学生／卒業生を対象としたシームレスな就職支援推進プログラムについて

文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムが本年度（2010年度）2年目を迎えました。昨年度には就職支援推進プログラム委員会を設置し、充実したサポート体制の構築に向けて、着々と準備を進めています。

昨年度はまず、経済状況の悪化など、就職をめぐる緊急事態にも対応できる体制の整備を主眼に同窓会・企業の協力の確認を行い、求人情報のデータベース化などの準備を始めました。また、就職活動における様々な悩みに対応するためにカウンセラーを増員し、24時間電話相談システムを導入しました。さらに、千駄ヶ谷キャンパスを在学生・卒業生の就職支援の新たな拠点として活用すべく、就職支援体制の整備を開始し、その一環として、就職情報検索用のパソコン6台を設置しました。

以前に比べると景気はいくらか好転する兆しはあるものの、来春の採用者数は今年度を下回るのではないかとという見方もあります。大学生の就職は大変厳しい状況に追い込まれていますが、そうした状況下において、この就職支援推進プログラム委員会の役割はますます大きなものになってきています。今後はさらに同窓会支部、企業の訪問を精力的に行い、両者との連携を深めるとともに、有用な情報を正確に在学生、卒業生に的確に伝えるためのメーリングリストの整備、就職活動懇談会の実施など、就職サポート体制の充実を図ります。また、学生や卒業生が就職活動をスムーズに行えるように証明書自動発行機を導入し、各種証明

書の迅速な発行を目指します。今年度は小平キャンパスのみの導入にありますが、都心へのアクセスが良く、就職活動において利便性の高い千駄ヶ谷キャンパスへの導入も検討しています。

お問い合わせ 教務課研究支援室 TEL 042-342-5130



① 就職活動を経験した上級生との懇談会の様子。
学生の要望に応え、少人数制できめ細やかな対応ができるよう、配慮されている。



② 9月に導入予定の証明書自動発行機

110th
Anniversary
in 2010

創立110周年記念事業ニュース

創立110周年記念行事について

2010年津田塾大学は創立110周年を迎えました。110周年を記念し、10月9日(土)は千駄ヶ谷キャンパス、翌日10日(日)は小平キャンパスにて創立110周年記念行事を行います。皆さまお誘いあわせの上、お出かけください。また、同窓生の方で10月10日に同期会を開催される場合は、津田梅子記念交流館にて会場の予約をお願いいたします。

I. 記念祭

日 時：2010年10月9日(土) 9:00～20:00
場 所：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール

1. 学生企画

学生有志が、学業やサークル活動などより得た日頃の成果を生かして創立110周年を盛り上げます。当日のイベントは、すべて学生による企画・運営。写真展・企画展や実演などのほか、有名女性アスリートを招いてのトークショーやドキュメンタリー映画祭の開催など、津田ホールならではの企画も予定しています。ぜひ、津田塾祭とは違った津田塾生の「いま」をお楽しみください。

(詳細は、創立110周年記念事業ウェブサイトにて順次ご案内してまいります。)

お問い合わせ 企画広報課 TEL 042-342-5113

2. 同窓会企画

天満敦子無伴奏ヴァイオリンリサイタル(18:30開演)

入場料 5,000円 全席自由 定員480名

*純益金は創立110周年記念事業に寄付いたします。

*チケットの販売は、8月18日(水)より同窓会事務局で開始いたします。受付時間：10:30～16:00(土日は除く)

お問い合わせ 同窓会事務局 TEL 03-3478-1972
e-mail:ogoffice@tsuda-jyuku.org

II. 記念礼拝・式典・シンポジウム

日 時：2010年10月10日(日) 10:00～15:30
場 所：津田塾大学小平キャンパス新館特別教室

1. 記念礼拝

講話：日野原 重明氏(聖路加看護学園理事長・本法人評議員)

2. 記念式典

- ・理事長 学長挨拶
- ・来賓祝辞
- ・記念事業報告

3. 津田梅子賞贈賞

4. エッセー／翻訳コンテスト表彰式

5. 記念シンポジウム

テーマ：世紀を越えて女性を勇気づける
— all-roundであるということ —

モデレーター：高橋 裕子(学長特別補佐 英文学科教授 1980年英文学科卒)

パネリスト：笹沼 澄子氏(国際医療福祉大学名誉教授 1953年英文学科卒)

板倉 由美氏(弁護士 1994年国際関係学科卒)

小林 由香氏(株博報堂CCディレクター 1986年数学科卒)

■ 記念事業の進捗状況について

デジタルアーカイブを公開しました

創立110周年記念事業の一環として、5月25日より本学の歴史資料や津田梅子関係資料をウェブサイトで公開いたしました。いずれも100年以上を経過しているため実物をご覧いただくことが難しい津田梅子留学当時の皇后沙汰書や留学免許状、着物、愛用の懐中時計のほか、創設期の本学にあって献身的な助力を惜しまなかったアナ・C・ハーツホンの遺品などをデジタル画像としてご自宅からでもご覧いただくことができます。コンテンツは今後も随時追加いたしますので、楽しみにお待ちください。

本学ウェブサイトから「デジタルアーカイブ」を選んでご覧ください。

お問い合わせ 津田梅子資料室 TEL 042-342-5219



津田塾大学
デジタルアーカイブ

創立110周年記念寄付申込状況

(2010.4.30現在)

皆さまのご協力に、厚く御礼申し上げます。

募金総数	3,789件
総 額	164,617,815円
目 標 額	300,000,000円

■ 第11回 津田塾大学高校生エッセー／翻訳コンテスト

国境を越える未来へのインスピレーション 国際人のパイオニア、津田梅子に手紙を書こう！ 津田梅子のスピーチを日本語に訳そう！

第11回高校生エッセー／翻訳コンテストは、創立110周年記念企画として第1回と同様に津田梅子先生のスピーチをテーマに取り上げ、従来の手紙形式のエッセーのほかに「翻訳」の募集も行ないます。

女子英学塾創立の一年前、津田梅子先生はイギリスのオックスフォードで「日本の女性」と題して、日本の文化や女性について講演を行ないました。その講演内容を読むと、津田梅子先生の子育てに対する情熱とともに、先生が国際化や異文化理解という今日的な問題を強く意識していたことが分かります。女子英学塾を構想した先生は、いつの日か日本の女性が「国際人」として活躍することを願っていたのです。

インターネットもなく、海外渡航も困難な時代にこのようなことを夢

見ていた津田梅子先生に思いを馳せて、手紙形式のエッセーや翻訳にチャレンジしてくれる高校生からの応募を期待しています。お知り合いの高校生におすすめてください。

高校生であれば、国籍・学年・性別は問いません。

◎パンフレットのお申し込み、お問い合わせ先

津田塾大学高校生エッセー
／翻訳コンテスト係 (企画広報課内)

TEL: 042-342-5113

e-mail: essaycon@tsuda.ac.jp

※大学ウェブサイト第1回～第10回高校生エッセー・コンテスト選考結果等を掲載しています。



大学の近況 2010(平成22)年度事業計画

■基本方針

創立者、津田梅子の建学の精神および教育理念には明確な現代性があります。本学では、それを時代に即した形に発展させ「21世紀の複雑で多様なニーズに対応すべく、グローバルに、そしてローカルに、勇気・情熱・志をもって世界を拓き、社会に貢献する女性の育成」を教育目標として掲げています。これらを実現するために、

- (1) リベラルアーツ教育に裏打ちされた、オールラウンドな人間力
- (2) 世界に向けての、知の発信力
- (3) 国際的に活躍・行動するための英語力とコミュニケーション能力
- (4) 生涯を通して学び続ける姿勢

この4点を教育の柱とし、事業計画を立案しています。

■主な事業計画

2010年度に新たに取り組むものについては★印を付します。詳細についてはウェブサイトをご覧ください。

[1] 教学の改革

① 個性ある教育活動

- ・Tsuda English Coordination Center (TECC) の活動を推進し、1、2年生の英語教育における習熟度別カリキュラム (PACE) を継続します。
- ・学科横断型コース「多文化・国際協力コース」「メディアスタディーズ・コース」の教育活動を推進します。
- ・津田ホールを「メディアスタディーズ・コース」の教育活動実践の場として活用していきます。

② 教育方法・履修指導の充実

- ・GPAによる履修状況の把握、成績評価基準の厳格化、進級基準の設定などにより、学生の学力アップ及び単位修得の実質化を徹底します。
- ・学生の成績・履修状況について、希望する保護者に通知する制度を導入します。★

③ 教員の教育内容・授業方法の改善

- ・学生による授業評価アンケートを活用します。
- ・ファカルティ・ディベロップメントを充実させます。(教授法研修会等の実施)

④ 学生支援体制の強化

- ・2010年度新入生を対象とし、就学支援特別給付金制度(総額600万円)を継続し、実施します。
- ・証明書自動発行機を導入し、証明書発行の迅速化をはかります。★
- ・新入生に実施している大学生精神医学的チェックリスト (UPI) の高得点者を対象とするカウンセリングを継続します。
- ・電話による24時間の相談制度を導入し、メンタルヘルスなどの各種相談に対応します。

⑤ 地域、高校、大学間ネットワークの拡充

- ・高大連携の活動を推進します。
- ・「多摩アカデミックコンソーシアム (TAC)」の活動を推進します。
- ・EU Institute Japan (EUIJ)、「EU Studies Institute (EUSI)」の活動を継続します。(EUSIは、一橋大学、慶應義塾大学とコンソーシアムを結成し、EUについての教育活動を行うものです。) EU科目の新設、サマースクールの実施、各種学術交流等を計画しています。
- ・日加戦略的留学生交流促進プログラム日本コンソーシアムの活動を推進します。

⑥ 学生募集活動及び一般広報活動の充実

- ・大学ウェブサイトを充実させます。今年度は情報科学科および津田梅子記念交流館のウェブサイトを改善します。★

⑦ 自己点検・相互評価

- ・大学基準協会による大学評価を実施します。★

[2] 外部資金によるプロジェクト

① 教育研究支援体制の充実と外部資金獲得の強化

- ・科学研究費補助金による各課題(平成21年度以前採択分)を推進します。
- ・文部科学省科学技術振興調整補助金「世代連携・理文融合による女性研究者支援」プログラム(平成20年度採択)を推進します。
- ・質の高い大学教育推進プログラム(平成20年度採択)を推進します。「専門課程における英語カリキュラム協調開発」(教育課程の工夫改善を主とする取組)「社会貢献は書く力とプロジェクト推進力から」(教育方法の工夫改善を主とする取組)
- ・大学教育・学生支援推進事業の活動(平成21年度採択)を推進します。★「在学生/卒業生を対象としたシームレスな就職支援推進プログラム」(学生支援推進プログラム(就職支援の強化など総合的な学生支援))「『協働』によるメディア教育の展開」(大学教育推進プログラム(大学における教育の質保証の取組の高度化))
- ・各種競争的外部資金獲得事業の運営等の統括・調整および新規獲得計画の立案を検討する研究支援会議を継続します。

② GP等支援費

- GP等支援費は、新しく外部資金を獲得するための支援を目的としています。プロジェクト型、チーム型の活動を支援し、外部資金の獲得を目指します。
- ・2004(平成16)年度に採択された特色GP(特色ある大学教育支援プログラム活動)は2007年度が計画最終年度でしたが、このプログラムで開講された授業科目「初等英語教育概論」について、活動の継続性を重視し、引き続き実施します。

[3] 教育重点配分予算

教育重点配分予算は、教育の改革・改善のための新しい試みを支援することを目指しています。

・授業科目8講座設置

「翻訳・通訳学」、「翻訳英語特別講座」、「国際協力研究」、「英語会話ⅢB」を2009年度に引き続き、開講します。

「初等英語教育研究」★：初等教育における英語学習についてどのような指導が妥当かを考察するため、文部科学省から出された指導法の資料や従来多くの研究者から提案されているさまざまな教授法やシラバス・カリキュラムの比較を行い、その背後にある教授法の理論とその実践について学びます。近隣の小学校においてさまざまな教え方を試みたり、児童の英語活動を観察したりします。

「EUコース科目の継続的提供」★：EUIJのEUコース提供科目として、「EU環境法」と「地域からみたEU」の2科目を開講します。

「夏期・冬期集中講義」★：文学研究科英語教育研究コース(千駄ヶ谷)で夏期および冬期集中講義を行います。夏期集中講義では海外の専門家からの最新の言語教育法情報を得ること、冬期集中講義では国内のベテラン教師から授業展開の最良の方法を学ぶことが大きな特色です。

「新・発音クリニック」★：「発音クリニック」は10年以上歴史があるプログラムであり、今年度はリスニングの強化レッスンを取り入れます。

情報科学科「プログラミング演習の少人数指導」★：情報科学科1、2年生対象の「プログラミング演習」についてコーチングの手法を取り入れ、いくつかのグループに分けた学生に対して、作成したプログラムについてのアドバイスなどサポートを行います。

TECCによる英語教育関連企画準備作業★：授業の補助教材用として、テキストや音声・映像資料、英語教授法、評価法を研究するための参考資料を購入し、英語教授法研究、授業展開研究のための担当科目会議を開催します。

メディアスタディーズ・コース「メディア機器およびネット環境充実」：映像やウェブサイト制作等の実践的授業のための必要機器、インターネット環境を整備します。

[4] 千駄ヶ谷キャンパスの整備

① 千駄ヶ谷キャンパスにおける大学の教育・研究の推進

・学部および大学院の授業を可能な範囲で実施するとともに、千駄ヶ谷で実施することが望ましい研究所・センターの設置や学会活動の推進、その他の教育関係プロジェクトを積極的に実施します。

・現職英語教員が平日夜間・週末および長期休暇中に授業に出席し単位を修得して、専修免許状を得ることのできる大学院文学研究科英文学専攻英語教育研究コースを2010年4月に開設します。★

・教育研究機構で次のプロジェクトを実施します。

「21世紀の思想と文化を考える-越境性をめぐる学際的アプローチ」
「多文化社会における言語教育を考える — 日本語、国語、英語、外国語教育の連携」
「バイオグラフィワーク・プロジェクト」

「千駄ヶ谷キャンパス国際交流ハブ・プロジェクト」★

・津田ホールを大学の講堂として位置づけ、大学の教育・研究の推進にさらに活用していきます。

② 千駄ヶ谷キャンパスにおけるオープンスクールの実施

・大学が監修する英語講座・生涯学習講座(対象:児童・生徒・社会人・大学生)を実施します。

・学生および社会人を対象とした「国際機関・国際協力分野志望者研修プログラム」(国際広報センター後援)と各種シンポジウムを実施します。

・「国際教養講座」、「MET21(Methodology of English Teaching for the 21st Century)小学校英語指導力向上セミナー」を実施します。

③ 千駄ヶ谷キャンパスにおける地域貢献事業の推進

・津田ホール等を活用した芸術・文化・国際交流などの公開教育講座やイベントを開催します。

④ 「千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社」

大学院事務、津田ホール運営、オープンスクール事務等の作業効率を高めるため、2008年1月31日に設立した本法人100%出資の子会社「千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社」を活用します。

[5] 施設整備の推進

・7号館の建築に伴い、館内の教室の教育環境を整備します。★

・図書館の情報システムを更新します。★

・小平キャンパス、西国分寺及び軽井沢のセミナーハウスに地上波デジタル放送に対応する工事を行います。★

・特別教室屋根防水工事、6号館屋上トップコート塗布工事、ポンプ所外壁補修塗装及び屋上トップコート塗布工事、受電所外壁補修塗装及び屋根・鉄部塗装工事を行います。★

・北校舎の取り壊しに伴う跡地整備の一つとして、大学ホールのバリアフリー改修工事を実施します。★

・6号館・東門守衛所の給水配管の盛替工事を実施します。★

・西寮の居室の改修工事を実施します。★

【6】創立110周年記念事業計画の推進

- ・記念事業募金を継続します。
- ・記念建築の計画を推進します。7号館は2010年7月に竣工予定です。新寮は2010年1月から設計を開始し、2011年度竣工予定です。★
- ・資料のデジタルアーカイブ化計画として本学関連の歴史的資料、津田梅子資料室で所蔵している本学の歴史的資料である同窓会『会報』をウェブサイトで公開します。★
- ・津田梅子賞は、津田梅子のパイオニア精神にちなみ、女性の未来を拓く可能性への挑戦を顕彰することを目的とし、2010年10月10日(日)の創立110周年記念式典で発表および贈賞式を行います。★
- ・110周年記念ウェブサイトを充実させます。

■予算の概要

【消費収支予算書について】(表Ⅰ)

消費収支予算書は、当該年度の総収入である帰属収入から、企業でいう自己資本に相当する基本金を控除した消費収入から人件費や教育研究経費などの消費支出を差し引いて消費収支の差異を表しています。企業会計の損益計算書に近いものですが、基本金組入れの概念は学校法人特有のものです。

(1) 収入の部

- ① 学生生徒等納付金
学生生徒等納付金は、ほぼ前年度と同規模であることを想定しています。
- ② 手数料
入学検定料収入は、過去の実績に基づき、2008年度決算と同額としました。
- ③ 寄付金
本年は創立110周年であり、それを記念した募金事業を2007年度から行なってきました。寄付目標額は3億円であり、2009年度末の募金額の差額を収入予測としました。
- ④ 補助金
2009年度までに競争的外部資金が5件採択されたことにより、増額となることを想定しました。
- ⑤ 資産運用収入
定期預金と保有する債券の利息収入、ならびに駐車場賃借料等の実績を参考に計上しました。
- ⑥ 事業収入
文部科学省の制度変更により、外部資金の一部が事業収入から補助金へと科目変更になったことで減額が見込まれます。
- ⑦ 雑収入
2010年度の退職者が前年度より増加することに伴い、私立大学退職金財団からの交付金の増額を計上しました。

(2) 基本金組入れ額

基本金には、土地及び建物附属設備等の取得である第1号基本金、将来の建物取得のための積立を行う第2号基本金と奨学基金の積立を行う第3号基本金、支払資金として確保しておくべき第4号基本金があります。第2号基本金への組み入れは3億1500万円で、その内訳は新館建替資金の1億円、南校舎建替資金の5000万円、図書館建替資金の1億1500万円、寮建替資金の5000万円です。また、創立110周年記念事業建築の設計費用として2182万円を建設仮勘定として計上しました。この2182万円は、既に積み立てている2号基本金(寮建替資金)を取り崩して充当します。

(3) 支出の部

- ① 人件費
教員人件費は競争的外部資金による特任教員の採用および千駄ヶ谷キャンパスにおける文学研究科英語教育研究コースの特任教員および非常勤教員の採用により増額となっています。職員人件費も、競争的外部資金による特任職員の採用により増額となっています。
- ② 教育研究経費
教育研究経費は、前年度とほぼ同規模の額です。光熱水費は、前年度の千駄ヶ谷キャンパスの実績を組み入れた額としています。奨学費は2008年度の実績額にもとづき予算計上しています。修繕費は当年の施設整備計画にもとづき増額しています。賃借料は、情報教育設備が当初のリース期間終了に伴い、再リースするため減額としています。実験実習費は、夏期語学研修の費用が減額となることを想定しています。雑費は、千駄ヶ谷キャンパスのオープンスクールの周知に関する費用を計上しています。
- ③ 管理経費
小平キャンパスにおける寮の居室改修、千駄ヶ谷キャンパスの固定資産税、津田ホールにおける音楽コンサートの費用を新たに計上しましたが、経常的経費の節約が功を奏し、前年度より減額が見込まれています。
- ④ 予備費
予備費は、前年度と同額の3300万円です。

(4) 消費収支差異

2500万円の支出超過予算となりますが、前年度繰越収入超過額が1億4200万円あるため、翌年度へ1億1700万円が繰り越させる計画となります。

【表Ⅰ：消費収支予算書】

収入の部 (単位：百万円)			
科 目	2010年度	2009年度	増減
学生生徒等納付金	2,952	2,938	14
手数料	141	149	△ 8
寄付金	159	68	91
補助金	449	357	92
資産運用収入	304	283	21
事業収入	143	198	△ 55
雑収入	157	41	116
帰属収入合計	4,305	4,034	272
基本金組入額合計	△ 626	△ 621	△ 5
消費収入の部合計	3,679	3,413	267

消費支出の部

(単位：百万円)

科 目	2010年度	2009年度	増減
人件費	2,265	2,025	240
教育研究経費	1,018	1,049	△ 32
管理経費	388	457	△ 69
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	1	1	0
(予備費)	33	33	0
消費支出の部合計	3,705	3,566	139
当年度消費支出超過額	25	153	
前年度繰越消費収入超過額	142	295	
翌年度繰越消費収入超過額	117	142	

※端数四捨五入のため、合計等が一致しないことがあります。

【資金収支予算書について】(表Ⅱ)

学校法人におけるすべての資金の収支内容を表しています。企業会計のキャッシュ・フロー計算書に近いものです。特筆すべき科目について、以下に解説します。

(1) 収入の部

- ① その他の収入
創立110周年記念事業の実施、寮建替のための設計、7号館(新北校舎)竣工など、今年度は大規模な事業が予定されており、それら事業のための引当金を繰り入れたため、増額が見込まれています。

(2) 支出の部

- ① 施設関係支出
7月に竣工予定の7号館の建築費用と北校舎跡地の整備費用、新寮の設計費用を計上しています。
- ② 設備関係支出
7号館内の教室の教育設備が大部分を占めており、その他、図書館の学生用和書の充実やデータベース資料充実などを計上しています。また、教育研究設備等の推進を継続して計画しています。
- ③ 資産運用支出
資金運用のための短期で元本確実な有価証券の購入を計画しています。(金額は、すべて百万円未満四捨五入しています。)

【表Ⅱ：資金収支予算書】

収入の部 (単位：百万円)			
科 目	2010年度	2009年度	増減
学生生徒等納付金収入	2,952	2,938	14
手数料収入	141	149	△ 8
寄付金収入	155	64	91
補助金収入	449	357	92
資産運用収入	304	283	21
資産売却収入	300	300	0
事業収入	143	198	△ 55
雑収入	157	41	116
前受金収入	629	629	0
その他の収入	1,402	454	948
資金収入調整勘定	△ 685	△ 726	41
前年度繰越支払資金	783	758	25
収入の部合計	6,731	5,445	1,286

支出の部

(単位：百万円)

科 目	2010年度	2009年度	増減
人件費支出	2,280	2,071	209
教育研究経費支出	778	809	△ 31
管理経費支出	327	395	△ 68
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	29	△ 29
施設関係支出	902	300	603
設備関係支出	335	161	174
資産運用支出	1,314	847	467
その他の支出	378	373	5
(予備費)	33	33	0
資金支出調整勘定	△ 426	△ 358	△ 68
次年度繰越支払資金	809	783	26
消費支出の部合計	6,731	5,445	1,287

※端数四捨五入のため、合計等が一致しないことがあります。

第2回フォーラムを開催

教育 GP 専門課程における英語カリキュラム協調開発

去る3月13日、第2回フォーラム「本物の素材を用いたICT利用の英語教育」を開催しました。英語教材協調開発システムCOOLL（現在は学内者のみ利用可、今秋学外公開予定）の機能紹介に続き、ビル・ゲイツなど、各界の著名人の講演をサイト上で展開しているTED x TokyoのPatrick Newell氏、英語学習サイトSmart.fmを主宰するAndrew Smith Lewis氏、ICTを利用した英語教育を実践しているAlistair Campbell氏（東京工科大学教授・本学非常勤講師）をパネリストに迎え、昨今の英語学習におけるICT活用について、聴衆も参加した熱いディスカッションが展開されました。

▶ What's New

- ① 本取組のウェブサイトオープン、フォーラムの内容も公開しています。 URL : <http://coolweb.tsuda.ac.jp>
- ② 新スタッフとして、特任助教の岸康人と久島智津子が着任しました。これから益々充実した活動を行っていきます。
- ③ Andrew Smith Lewis氏の講演会を7月14日(水)に開催します。

お問い合わせ 英語カリキュラム協調開発プロジェクト事務局
TEL 042-342-5128 E-mail : cool@tsuda.ac.jp

新しい季節 — キャンパスに賑やかな声

今年度もたくさんの新入生を迎え、春の訪れとともにキャンパスには賑わいが戻ってきました。そんな中、中庭のイチヨウの大木から桜の枝が生え、花を咲かせているのが見つかり、話題となりました。この珍しい出来事は新聞やテレビなどのメディアでもおめでたいニュースとして紹介され、新入生歓迎や、創立110周年でお祝いムードのキャンパスに、より一層の彩りを添えました。



新入生オリエンテーションの様子



春の珍事として紹介された桜の花

協定校大学からの交換留学生

2010年4月に新たに4名の交換留学生が津田塾大学に入学しました。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

韓 ビツ	梨花女子大学（韓国）
金 晃怜	梨花女子大学（韓国）
陳 徳涵	淡江大学（台湾）
梁 凱琳	オーストラリア国立大学（豪州）



留学生のみなさん



韓国の伝統音楽を披露する韓さん

保証人の方への成績通知について

2010年度より、学生の成績通知を希望される保証人の方へ、年度末に成績通知書を送付することとなりました。申し込みの締切は4月末日に定めていましたが、導入初年度ということ considering、6月末日まで延長させていただきます。所定の用紙に学生、保証人連署の上、教務課へご提出ください。よろしくお願いいたします。

お問い合わせ 教務課 TEL 042-342-5130

女性研究者支援センター

3月10日に千駄ヶ谷キャンパスにて、女性研究者支援センター主催第3回シンポジウム「Mentoring for Technical Women」を開催しました。女性初のチューリング賞受賞者フラン・アレン博士（IBM名誉フェロー）をお招きし、米IBMの事例を通してメンタリングの重要性についてご講演いただきました。また、プログラム後半では、四分一 瑞紀氏（日本IBM）、遠藤雅子氏（筑波大学男女共同参画推進室 准教授）、そして川添 愛女性研究者支援センター特任准教授を交え、企業と大学におけるメンター制度についてパネル討論が行われました。



フラン・アレン博士

お問い合わせ 女性研究者支援センター TEL 042-342-5142

パネル展「岩倉使節団が見聞したヨーロッパの多様性と統一性」を開催

岩倉使節団は、特命全権大使岩倉具視以下、木戸孝允、伊藤博文など明治新政府の要人からなる大規模な公式使節団として、明治4年～6年にかけて、アメリカ合衆国ならびにヨーロッパ各国に派遣されました。

今回のパネル展は、欧米各国を歴訪した使節団の行程や時代背景などを示す、貴重な写真や図版などの資料によって構成されたものです。ヨーロッパでの訪問国は、イギリス、フランス、ドイツをはじめ、北欧からイタリアまで12カ国にも上りました。使節団一行が時のヨーロッパをどのように体感したのかを感じ取ってください。



このパネル展は日・EUフレンドシップウィークを記念し、EUSIの主催、駐日欧州委員会代表部、オーストリア大使館の協力で開催いたします。（申込不要・入場無料）

日時：2010年5月18日（火）～（月～金曜日）
9：00～16：00

場所：津田梅子記念交流館

詳細はEUSI Tsuda ウェブサイト
<http://www2.tsuda.ac.jp/eusi/>をご覧ください。

お問い合わせ 津田梅子記念交流館事務局 TEL 042-342-5146

受賞おめでとうございます

5月23日（日）、津田塾大学同窓会賞授与式が行われました。津田塾大学同窓会では、成績・人物ともに優れ、奉仕の精神に富む4年生に対して「津田梅子記念同窓会賞」を授与しています。

▶ 受賞者（敬称略、学科別・順不同）

【英文学科】	大庭 真佐子	岩下 はるか
【国際関係学科】	須藤 茉衣子	保母 里奈
【情報科学科】	柳武 真帆	

寄付者ご芳名 ご支援・ご協力に感謝申し上げます

▶ 一般寄付者ご芳名（2010年4月30日現在）

千駄ヶ谷キャンパス生涯学習充実のため 赤松 良子様 500,000円

在学生の保護者の皆さまに「教育振興資金」へのご寄付をお願いしております。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 経理課 TEL 042-342-5125

新任専任 教員紹介

英文学科准教授 青沼 智

主な担当科目：基礎セミナー、3年セミナー、異文化理解とコミュニケーション



専門はコミュニケーション研究です。最近、統治と異議申し立てという二つの相対するコミュニケーションの政治力に興味を持っています。大学院時代を過ごしたアメリカ中西部から帰国して今年で12年目になります。気持ちを新たに、教育そして研究とさらに意欲的に取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

英文学科助教 西尾 ななえ

主な担当科目：Reading Skills I A/B



専門はアメリカ文学です。特に19世紀の思想家Ralph Waldo Emersonに関心があります。学部、大学院とこれまでお世話になった母校で働けることを心から嬉しく光栄に存じます。これからはこれまでの恩返しがいずれもできれば幸いです。仕事に研究に精一杯励んで参りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

大学院文学研究科教授 野田 小枝子

英語教育研究コース（千駄ヶ谷キャンパス）



大勢の方々の長年に亘るご努力の結果としてスタートした千駄ヶ谷の大学院の仕事をさせていただき誠に光栄に存じます。同時に責任の重さを感じております。本大学院生が、教育現場で仕事をしながらそれを活かして豊かな学びの体験ができるよう、努力してまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

国際関係学科准教授 中村 元哉

主な担当科目：東アジア研究（中国近現代史）、中国語



私の専門分野は中国近現代史です。近現代の中国は台湾・香港・日本との関係を抜きにしては語れません。しかし、それと同程度に重要なことは、近現代であるが故に、イギリスやアメリカなどの欧米諸国とも密接に連動してきた（いる）という事実です。長い伝統を有する中国の特殊性に加えて、このような「世界のなかの中国」という視角を意識した時に、はじめて現代中国を客観視できると考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

国際関係学科助教 小原 江里香

主な担当科目：2年セミナー



現代中国の労働力移動について、現地調査から得られた情報やデータをもとに開発経済学と社会学の視点から研究しています。近年は来日する中国人研修生の送り出しメカニズムにも注目しています。津田塾大学のOGとして、学生の皆さんの勉強面での相談にも丁寧に応じていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「みなさん、卒業おめでとう！」

卒業礼拝（2010年3月16日 岡島記念チャペルにて）

加賀 彦彦氏（小説家、精神科医）

皆さんは卒業されて、喜びと一抹の寂しさにとりつかれて、多分、明日お泣きになるでしょう。「会う」と「別れて行く」というのが人生。別れていく寂しさの中に、やはり苦しみもあるのであって、私達人間は長い人生の中で色々困難に出会います。これは避けられないことであり、私は今幸福と思っておられる人が多いと思いますが、人には必ず不幸がやってきます。ご両親が去っていく、友達と喧嘩する、年をとると老いの苦しみが出てきます。

津田塾ができたのは1900年だそうで、津田梅子先生は1929年に亡

くなられました。私はその年に生まれたので、今80歳。何だか津田と自分とはつながっていると思うながら、こちらの雑木林を歩くと色々なことを思います。礼拝堂のある大学で学んだことを忘れないようにして下さい。

人間にふりかかる不幸は避けられないもの。テレビで国会中継を見ると、政治家は若い人たちにいじめをどうやってやるかを教えているようなものです。そのような国でいじめがなくなるのは当たり前です。でももしいじめられた時は、自分が強くなるために神様が与えて下さったことと思って下さい。皆さんがこれからの人生で不幸になったら、最近出版した私の本『不幸な国の幸福論』を読むと絶対幸福になります。



理事会・評議員会開催報告

●第196回理事会（2010年3月9日）

（報告事項）

- ・2010年度入試志願者状況について
- ・創立110周年記念事業について

（審議事項）

- 1) 3/25開催の評議員会に諮問することを審議する事項
 - ・2010（平成22）年度事業計画（案）・予算（案）に関する件
- 2) 本理事会での審議事項
 - ・津田塾大学学部学則の一部改正に関する件
 - ・津田塾大学大学院学則の一部改正に関する件

●第197回理事会（2010年3月25日）

（報告事項）

- ・2009年度卒業者数について

（審議事項）

- ・2010（平成22）年度事業計画（案）・予算（案）に関する件
- ・津田塾大学学部学則の一部改正に関する件
- ・津田塾大学大学院学則の一部改正に関する件

●第153回評議員会（2010年3月25日）

（報告事項）

- 1) 学事報告
 - ・2010年度入試志願者状況について
 - ・2009年度卒業者数について
- 2) 創立110周年記念事業について

（諮問事項）

- ・2010（平成22）年度事業計画（案）・予算（案）に関する件

IF YOU'RE INTERESTED...

公開講座

津田梅子記念交流館プログラム

お申込: 津田梅子記念交流館事務局 TEL042-342-5146まで
会場: 小平キャンパス

あなたの創造性を開くクリエイティブ・ペインティング『『日没』を描く』

■講師: ダニエル・モロー氏 (画家・ゲーテ科学研究者) ■日時: 2010年7月4日(日) 10:00～16:00
■参加費: 4,000円 別途材料費: 500円

「子ども英語劇プログラム『ピノキオ』」

■対象: 小学校5年生から中学1年生 ■日時: 2010年7月26日(月)～8月1日(日)
■参加費: 12,000円 7月29日(木)を除く6日間 10:30～16:30

「英語教員のためのワークショップ」※千駄ヶ谷キャンパス

■講師: 上田 明子氏他 ■日時: 2010年8月23日(月)～25日(水)
■参加費: 12,000円 10:30～14:30

「数学教員のためのワークショップ」

■講師: 何森 仁氏他 ■日時: 2010年7月30日(金)～31日(土)
■参加費: 12,000円 10:30～16:15

「音楽療法」

■講師: 濱谷 紀子氏 ■日時: 2010年8月12日(木)～13日(金)
■参加費: 10,000円 10:00～16:00

総合2010 「知の冒険～新たな可能性を求めて～」

お問合せ: 教務課 TEL042-342-5130まで
会場: 小平キャンパス

現代のさまざまな問題を取り上げ、学生が主体となり教員と協力して運営にあたる「総合」。昨年度の「境に立つ」に続き、今年度は「知の冒険～新たな可能性を求めて～」をテーマに、各界でご活躍の方々にご講演をいただきます。

■日時: 授業期間中の毎週木曜日 13:00～14:30 ■場所: 新館特別教室

2010年度(前期) これからの講演者

6月3日(木) 小林 直生氏 (キリスト教共同体司祭)	6月24日(木) 福田 義也氏 (JAXA産業連携センター産業連携推進室長)
6月10日(木) 長谷川 眞理子氏 (総合研究大学院大学教授)	7月1日(木) 吉野 さつき氏 (アートマネージャー)
6月17日(木) 岩橋 亜希菜氏 (建築家)	7月8日(木) 合原 一幸氏 (東京大学教授)

ソーシャル・メディア・センター公開講座

お問合せ: ソーシャル・メディア・センター TEL042-342-5126まで
会場: 小平キャンパス

メディア・ジャミング『「問題」ってなに? ソーシャルワークの観点から考える』

■講師: 山下 英三郎氏 (日本社会事業大学教授) ■日時: 2010年6月18日(金) 18:30～20:00

ウェルネス・センター公開講座 〈「食」を考えるIII〉

お問合せ: ウェルネス・センター TEL042-342-5147まで
会場: 小平キャンパス

『認知症の人や障害者が元気になる食とその環境』

■講師: 松村 正希氏 (株莫設計同人 代表取締役) ■日時: 2010年7月5日(月) 10:30～12:00

ライティング・センター公開講座

お問合せ: ライティング・センター TEL042-342-5129まで
会場: 小平キャンパス

『伝える仕事・書く楽しみ』

■講師: 住吉 美紀氏 (NHKアナウンサー) ■日時: 2010年6月26日(土) 15:30～17:00

『「私」の体験・視点から伝える～いじめ社会の子どもたちと「ホーム」レス』

■講師: 北村 年子氏 (ノンフィクションライター) ■日時: 2010年7月7日(水) 16:20～18:20